

特定非営利活動法人  
アフリカ支援



アサンテ ナゴヤ

2017年6月発行

## 目次

- ・コミュニティセンター事業 活動報告
- ・講演会・総会のご報告、参加者アンケート
- ・お知らせ



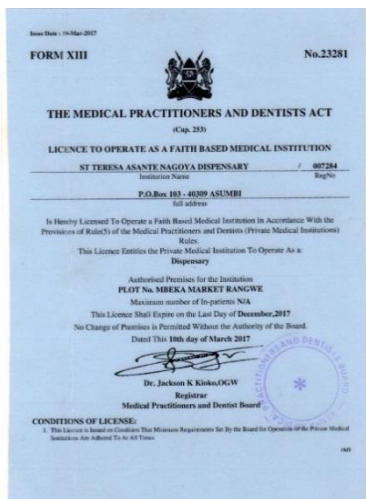
## ゲム・イーストコミュニティセンター事業の進捗状況

アフリカ支援 アサンテ ナゴヤ理事  
帰来堂鍼灸療院院長  
坂光 信夫

### § 聖テレサ・アサンテ ナゴヤ診療所開設

平素より私たちNPO法人アフリカ支援アサンテ ナゴヤの活動にご理解と多大なるご支援を賜わり、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

今回のニュースレターではようやく嬉しいご報告をすることができます。皆様の温かいお志のお陰で建設されたゲム・イーストコミュニティセンターがこの度【聖テレサ・アサンテ ナゴヤ診療所】(St. Teresa Asante Nagoya Dispensary)として、公的な医療施設としてケニア政府の認可を受け、ゲム・イースト地区居住の約12,000の人々に恒常的に医療を提供できる体制が整いました。



左の画像はケニア政府発行の診療所開設許可証です。これまで私たちは『電気も水も公共交通機関もなく、アクセスできる医療施設もない村での無料医療キャンプ』という言い方をしてきましたが、今後ゲム・イーストは『電気とクリーンな水に恵まれ、私たちアサンテ ナゴヤが支援して完成した医療施設のあるところ』になります。皆様の長期に亘る温かいご支援の賜物です。

アサンテ ナゴヤは2013年5月の『建設募金』と2014年11月の『井戸掘削募金』と2回の募金を実施させて頂きました。『建設募金』では2,620,502円、『井戸募金』は4,642,870円と短期間に連続してお願いしたにも関わらず、大きな金額をご寄付頂き目標金額を達成できました。

センター建設に際しては、アサンテ ナゴヤ設立以前に内海眞先生個人に多額のお金を預託された匿名のご夫妻のことも忘れられません。その無私のお志は私たちアサンテ ナゴヤの背中を押して下さいました。ご夫妻については2014年1月発行のニュースレターに内海眞副理事長の寄稿文が掲載されています。

建設工事は現地のNGOであるRUNELDのエリアス牧師の指導の下で順調に進み、2014年から新築のセンターで医療キャンプを実施できるようになりましたが、井戸掘削工事は難航しました。2015年の初めに工事を開始したのですが、その年9月のキャンプでは硬い岩盤を200m掘削して水源に到達するところまで。1年後の2016年のキャンプにおいてすらポンプやタンク等の設備が未完で、村人がクリーンな水を享受している様子は見られず、正直がっかりでした。私が編集した2016年キャンプのDVDには水が湧き出ている動画を収録しましたが、実際はただ水が出たというだけのことでしたので、心苦しかったです。ずいぶん長くお待たせしてしまいましたが、お陰様で私たちの夢を実現できました。右の写真は、村の人たちがクリーンな水を汲みに来ている様子です。



井戸のタンクとポンプは昨年9月には完成しており、その後配管工事をを行い、センターの側に建てたキオスクで水の販売を開始したと、帰国後しばらくして報告がありました。クリーンな水は村の人たちの生活を確実に変える力となります。皆様のご支援のお陰です。本当にありがとうございました。

電気を引いたり、井戸を掘ったりするためには政府の承認が必要です。センターの建築工事完了後、RUNELDはエリアス牧師が中心となって早速に役所との折衝を開始したのですが、承認には長い時間がかかりました。ケニアの役人は仕事が遅く、何かにつけて賄賂を要求するという事情もあったようです。エリアス牧師は聖職者として、賄賂で問題を解決することはしなかったようで、お預かりした資金が賄賂に遣われなかったのはよかったと思います。

その時の経験から医療施設の承認にはさらに長い時間がかかるものと覚悟していましたが、案に相違して短時間で承認を受けることができました。全国的なストライキの影響で役所の動きは普段以上に悪かったようですが、牧師は友人の医師の助けを借り、息子のモーゼスも協力して役所に働きかけたそうです。昨年の無料医療活動のための短期医療免許取得手続きもモーゼスが担当しました。

### § ボランティアによる医療提供の開始



センターでは、医療機関の認可が下りる前の2016年の暮れから先行して村の人たちへの医療の提供を始めていました。実は上述のストライキとは、賃上げを求める医療関係者による全国的なストライキだったのです。国公立の病院の医師が一斉にストに入り、それが100日も続いたということで、大変なことでした。ゲム・イーストではエリアス牧師を中心にRUNELDとして自費で薬を購入し、センターで村の人たちに医療の提供を開始しました。

ボランティアで医療を担当したのは、キャンプで皮膚科のアシスタントを務めたエドワード、検査担当のケネディー、地元のクリニカル・オフィサー（準医師）の3名です。左の写真はセンターに来た患者さんです。ベッドを運び入れ、行き場を無くした村の人たちを受け入れることができました。



2014年にセンターの建物が完成して、キャンプの運営はぐっと合理的になり、診療数が激増しました。それはいいのですが、キャンプのために建物を建てたわけではありませんから、私たち理事会としては「一体いつになったらセンターで恒常的に医療を提供できるようになるのだろうか？」とずっと気をもんでいました。たとえ看護師の週一回の巡回でもいいので、最低限でもまずは医療提供を開始してほしいと要望していました。私は連絡担当として何度も英文メールを送り、今後の計画や見通しについて問い合わせていましたが、なかなか納得できる回答は得られず、NPOとして支援者の皆様方への説明責任が果たせないことに苦悩していました。ところが医療関係者のストライキという事件が契機になったとはいえ、私たちからすればいともあっさり医療提供が始

まり、その連絡はとても嬉しい驚きとなりました。

今回特に喜ばしい知らせはエドワードの参加でした。彼は毎年皮膚科で内海大介医師の通訳を務めているボランティアです。キャンプ中に医師の指導で外傷の処置等を熱心に学び、キャンプ後は重傷者の自宅に出張。ボランティアで施術を続けていたのです。その結果患者さんの症状が大きく改善し、翌年大介先生を驚かせることになりました。誠実なエドワードにはぜひ聖テレサ・アサンテ ナゴヤで中心的な役割を担ってほしいと思っています。2015年12月発行のニューズレターに、内海大介医師によるエドワードについての寄稿文が掲載されていますのでぜひご一読ください。

## § RUNELDの献身と発展

アサンテ ナゴヤがこれまでケニアでの活動を続けていくことができたのは、現地にRUNELD (Rural New Life Development) という強力なパートナーがいたからです。リーダーのエリアス牧師との初めての出会いは2009年で、ゲム・イーストでのこと。名古屋市在住の薬剤師である讃岐珠緒さんの仲介でした。讃岐さんはケニアで独自の活動を続けていらっしゃる方で、アサンテ ナゴヤとゲム・イーストの縁結びをして下さいました。エリアス牧師はゲムのコミュニティに影響力があり、彼がいたからこそキャンプもセンターも成立したと言えます。彼は昨年リタイアし、故郷のゲム・イーストに戻ってきました。現在はフルタイムでコミュニティのための仕事をしています。エリアス牧師の献身的なリーダーシップはゲム・イーストにはなくてはならないもので、役所や地元との交渉など今後ますます重要な役割を担って下さるはずで、また彼はコミュニティに多額の寄付をしています。詳しいことはわかりませんが、現在もセンターの維持費などでかなりの金額を負担しているはずで、そもそもこの計画は、2012年にエリアス牧師がセンターのための土地を自分で購入したことから始まりました。私たちは意気に感じ、帰国後建設募金の実施に踏み切ったのです。



エリアス氏の娘のメリーはHIVカウンセラーで、とても社交的。毎年医療キャンプのために20名ほどのボランティアを集めているのは彼女です。メリーはゲム・イースト育ちで、友人や親類など活動を支援してくれる仲間がたくさんいて、持ち前の明るさでその人々をチームとしてまとめています。

メリーは昨年これまでの活動が認められ、イギリスのチャリティー団体から表彰され、大きな資金援助を受けました。その資金を活用し、昨年からゲム・イースト周辺の各地で RUNELD として HIV 啓発活動を実施していて、そこにはキャンプのボランティアメンバーの多くが参加しています。私たちが実施した無料医療キャンプを通じて、ケニア人ボランティア側にも信頼関係が形成され、こうした形で実を結んでいます。エリアス牧師の息子のジュマも HIV カウンセラーとなり、聖テレサ・アサンテ ナゴヤ診療所での HIV カウンセリングを始める予定です。



RUNELD のもう一人の主要メンバーであるダグラスのことも決して忘れられません。RUNELD はナイロビの HIV カウンセラーであったメリーとダグラスが創設した団体です。ケニアの中では際立って HIV 陽性率の高い彼らの故郷ニャンザ州の状況を改善すべく、まずはメリーの故郷であるゲム・イーストで活動を始めるとしたのです。ダグラスの村はゲムから車で 4 時間ほどの距離にあるアセンボです。彼は自分の故郷ではない村のためにこれまで何年も献身的に働いてきました。キャンプでは最初から最後まで私たちと同行してくれました。

毎年ナイロビのホテルで合流し、キャンプの後もナイロビまで送ってくれます。ホテルもずっと私と同室。2011 年に私が理事に就任してからは、彼に窓口になってもらい、それ以来連絡担当の私との間で交わされた e メールは数百通に及びます。ダグラスの純朴で誠実な人柄が私たちアサンテ ナゴヤと RUNELD との間の信頼関係を醸成しました。約束の時間を常に守り、メールも最短時間で返信をくれます。多くの日本人が悩まされるケニアの「ポレポレ(のんびり、ゆっくり)」によるストレスは私たちには無縁でした。質問にはいつも誠実に回答してくれますが、アサンテ ナゴヤと RUNELD の間で板挟みになって、辛い思いをすることもあったようです。

彼は本当は自分の村であるアセンボでの活動を熱望しているのですが、慎み深い彼がアセンボのことを初めて口にしたのは 2013 年のキャンプでのことでした。私たちは彼の気持ちに添えて、2014 年、15 年と彼の両親の住む家に出向き、診療とお灸の指導を行いました。彼は今もそのことに大いに感謝してくれています。アセンボも HIV 陽性率が高く、医療へのアクセスが悪いところなのですが、土壌が痩せていてゲム・イーストよりもさらに貧しい地域です。今後ダグラスがアセンボで活動を開始するようなことがあれば、何か支援をしたいと個人的には思っています。

### § 聖テレサ・アサンテナゴヤ診療所の今後の見通し

医師のストライキで応急的に開始した診療所の今後はまだ不透明です。貧しい村の人々相手の医療機関が経済的に自立していくのは簡単ではないでしょう。先日も検査器具を購入する必要があるけれど資金が不足していると連絡がありました。

ケニアの医療制度はレベル 1 から 6 に分けられていて、聖テレサ・アサンテ ナゴヤはレベル 2 の入院施設の無い診療所として登録されています。ちなみにナイロビの



チャイルドドクタークリニックもレベル2で、昨年研修したキシイ病院は最高レベルの6です。私たちとしては小規模でも継続的に医療を提供できる体制にするように要望していますが、エリアス牧師は何としても入院、分娩施設を備えたレベル3ヘルスセンターを設立したいとの考えで、既にそのための建設を進めています。規模が大きくなれば、人件費など多額の費用が必要となるのは当然ですので、彼らが本当に自立して運営していけるのかどうか、詳しく話を聴かなくてはなりません。



センターでは診療だけでなく、HIV啓発活動などのワークショップも開催されています。また、エリアス牧師が仕えていた教会からオープン寄贈を受け、村の未亡人のグループがセンターでケーキや食べ物を作って販売する事業を始めました。これは弱い立場にある女性たちに経済的に自立する機会を提供することとなります。以前ダグラスがセンターの意義についてレポートを作成してくれて、その中で「コミュニティの中心的な存在として機能し、その経済的な波及効果はとても重要だ」と書いていました。皆様のおかげで完成した建物は、エリアス牧師がゲム・イーストに帰って来て、夫人のマーガレットや子どもたちの協力も得られるようになり、村の人たちのために有意義に活用されています。

アサンテ ナゴヤは2010年から毎年無料医療キャンプを実施し、その活動は年々コミュニティに根付いてきました。特に2014年からは診療者数も増え、診療・検査の内容も充実してきました。日本からは毎年新しいメンバーにケニアの農村の状況を体験して頂いています。キャンプの一番の目的はHIVの高い陽性率を改善することで、そのためにキャンプでの診療・検査を通じて村の人たちのHIVに対する意識を変えることを目標にしてきました。2015年のキャンプで、人々に大きな変化が見られ、殆どの方がHIVをもはやタブー視することなく、自ら検査を受けているということがわかりました。その変化は翌2016年にはっきりと確認できました。このことから無料医療活動については一定の成果が得られたものと考えております。2016年のキャンプは実施までに課題も多く、その後も色々なことがあり困難な時期でした。それらを乗り越え、お陰様でこうして診療所の開設に至りました。

今後は認可を受けた診療所「聖テレサ・アサンテ ナゴヤ」が継続的に村の人たちの健康を支えているように支援することが目標となります。今年はいくつかの規模の医療キャンプは実施しない予定ですが、9月にはまた内海副理事長を含むメンバーでケニアを訪れ、現状の視察、現地医療施設との連携を含めた今後の展望を模索してくることになっています。また帰国後にアサンテ ナゴヤとしてご報告を差し上げます。

皆様方のご理解とご支援を賜わり、アフリカ支援 アサンテ ナゴヤの自立支援活動もついに現地に診療所を開設できるまで参りました。まさかこんな短期間で実現するとは夢にも思いませんでした。皆様に心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 講演会・総会のご報告

アフリカ支援 アサンテ ナゴヤ  
理事長 石川佳子

いつも私たち NPO 法人アフリカ支援アサンテ ナゴヤの活動に心をお寄せくださり、ありがとうございます。心より御礼申し上げます。

2009 年のリサーチの旅から始まった私たちの活動も、おかげさまで 9 年目を迎えます。この道のりに関しましては、冒頭で坂光理事が詳しく書かせていただいていますので、是非じっくりお読みいただければ幸いです。

先日 5 月 14 日に、名古屋市昭和区の聖霊病院、聖霊ホールにて開催されました講演会・総会のご報告をさせていただきます。当日は大変多くの方々にご参加くださり、ホールは熱気に溢れていました。お集りいただいた方々に心より感謝申し上げます。

今回は、ペシャワール会会長で、国立病院機構榊原病院院長でいらっしゃる村上優先生をお招きして「アフガニスタンにおける中村哲医師の活動とペシャワール会」という演題でお話をさせていただきました。私もペシャワール会のことは多少存じ上げておりましたが、私の認識では、医療活動と井戸の掘削・水路のカレーズの再生という程度でした。お話は私達の想像をはるかに超える内容でした。現在は地域の住民を帰農させるために、『緑の大地計画』として、砂漠化した土地に巨大な用水路を造り、土地を開墾して砂漠を農地に蘇らせているのです。その用水路の取水口には江戸時代の日本の工法を取り入れるなど、現地の事情に則した様々な工夫がされており、聴いている私達はプロジェクトの規模の大きさにただただ圧倒されました。砂漠が緑の農地に変わっていく映像は壮大で、とても感動的でした。中村哲先生自らが、大きなショベルカーを扱っていらっしゃる姿にはびっくりしました。



中村哲先生は～誰もが押し寄せる所なら誰かが行く、誰も行かない所でこそ、我々は必要とされる～という信念で、30 年間活動を続けてこられました。そして、先生は、～私たちには確固とした援助哲学があるわけではないが、唯一の譲れぬ一線は「現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のためにはたらく」ことである～と書物の中で書いていらっしゃいます。

これらのお言葉は大変僭越ながら、私たちアフリカ支援アサンテ ナゴヤの活動理念にも通ずるところがあり、私たちはリサーチの旅で現地の人達から聞いた、現地独特の文化を大切にしながら、現地の

人達が熱望する医療施設建設事業やクリーンな水を得るための深井戸掘削事業を進めて参りました。その過程では、私たちも現地の人々の立場に立って活動をしてきたつもりです。

様々な創意工夫をされながら活動をされている中村哲先生は、さぞかしイケイケドンドンの方かと思っておりましたが、意外にも結構悩まれる方だということを、講演会・総会後の懇親会の席で、村上先生からお伺いしました。朝令暮改ではありませんが、朝・夕・翌日と構想が行ったり来たりされることがあり、その都度、村上先生は「うんうん」と相槌を打っていらっしやっただけです。

現地で精力的に活動される中村哲先生を、日本でペシャワール会会長として長年支えてこられた村上先生ですが、実は村上先生も凄い方なのです。大変お忙しいお立場にもかかわらず、村上先生は経営困難に陥っていた国立病院機構榊原病院の経営の立て直しに尽力されたのです。

村上先生のご講演に先立ち、内海副理事長から私たちアフリカ支援アサンテ ナゴヤの活動についてもご報告させていただきました。これまでの活動の経緯や今回、現地に開設されることになった診療所のことまで、わかりやすくお伝えしました。

講演会後の総会では、昨年度の事業報告、決算報告、今年度の事業計画案、予算案および定款の一部変更に関して提示させていただき、全会一致にてご承認いただきましたことをご報告致します。

会場にはケニア・ゲムイースト村のエリアス牧師から送られてきた「聖テレサ・アサンテ ナゴヤ診療所」(St. Teresa Asante Nagoya Dispensary)の建物や診療風景などの写真が大きく拡大されて展示され、私たち理事はこれまでの経緯を思い起こしながら、皆様のご支援と現地の人々、特にエリアス牧師の努力によって、比較的短期間にここまで到達できたことにとっても感動しておりました。会場においでになった方々にもその感動は伝わったことと思います。



「聖テレサ・アサンテ ナゴヤ診療所」では、新生児も取り上げられています。素晴らしいことです。とても明るい未来を感じます。私たちは皆様に支えていただきながら、この活動をこれまで続けてきた喜びを感じています。

私たちアフリカ支援アサンテ ナゴヤの活動も大きな転換点を迎えております。今後は現地の医療施設が恒常的に運営されていくのを見守りながらの支援となって参ります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## § 参加の皆様のお言葉

今回は講演会ご参加の皆様アンケートのご協力を頂きました。誠にありがとうございました。一部抜粋してご紹介いたします。

『アフガニスタンにおける中村哲医師の活動とペシャワール会』

・“維持可能な技術”とても心に残りました。現地で活かされる技術や知識、もっと広い視野を持って今後自分に出来るものを続けていけたらと思っています。(30代)

・「百の診療所より一本の用水路」深い言葉だと思います。現地を知りつくした人でないと出てこない言葉。(60代)

・事業が事業を呼び、生きることに繋がられること、圧巻、感動しました。  
(50代)

・「天の時、地の利、人の知」「地域の自然条件を熟知し、土地の文化を重視する」という言葉、自分も海外支援の活動をしています、ともに深く同感する所でした。(70代)



#### 『アサンテ ナゴヤ ケニア・ゲム村における医療活動について』

・青年海外協力隊などの活動はテレビで見る機会が多く、なかなかそれ以上に進むことはなかったのですが、今日実際の詳しい活動、数値などを目にする事で、その活動がいかに大きな助けになっているのかがわかりました。(10代)

・感動しました。私も何か人や社会のためにやらなければならないと決意しました。(40代)

・次は“風に立つライオン”の音楽を流しながらお話していただきたい。お話と共に音楽は心に響くと思います。  
(50代)

・今後の方向性が楽しみです。(50代)

・具体的な医療活動について知りたかったです。(50代)

・アサンテ ナゴヤの存在を全く知りませんでしたので、アフリカでも活躍していらっしゃる団体があることに感銘を受けました。(70代)

・医療から給水まで幅広く活動されていることを知り、敬意を表します。どこの地域でも共通の重みがあると思います。(70代)

・アサンテ ナゴヤの医療活動を知ってから、自分にも何か出来ることはないかと、まだまだ未熟ながらに考えております。物事を広く、深い知識ももっとたくさん学び、活かせるようにしていきたいと思います。(30代)

・アフリカでこのような地道な活動が名古屋の人の手で行われていることを知り、たいへんうれしく思いました。  
(60代)

・短期間で、何もなかった村にコミュニティセンター、電気、井戸、そして診療所と、つくり上げていくには、多大なる労力を要したと思います。ここまでの取り組みに敬意を表します。(40代)



## お知らせ

2017年度活動計画（2017年4月1日～2018年3月31日）

- \* 5月14日 アサンテ ナゴヤ講演会&第1回通常総会（実施済）
- \* 7月 第28回愛知サマーセミナー参加
- \* 9月15日～24日 ケニア・ゲム・イースト村視察&現地医療機関との連携のためケニア渡航  
聖テレサ・アサンテ ナゴヤ診療所視察、キシイ病院研修、長崎大学熱帯医学研究所訪問等を  
予定しています。
- \* 11月 現地視察報告会
- \* 12月 ニュースレター発行

### \* 会費、賛助会費、協賛及び寄付金をいただいた企業・団体および個人（敬称略）

（平成28年11月10日から平成29年5月20日までにご支援をいただいた皆様です）

AOI 募金、青木孝夫、青木紫、青山純也、青山真夕、尼子道子、石居尚子、石黒博人、板橋シティマラソンアフター  
石丸佳代子、市田知美、伊藤絹代、乾朋子、井上由記恵、今村淳治、岩田光、内海みどり、衛藤義人、遠藤清美  
大岩洋子、大下博、岡田智子、岡本裕子、小川賢二、小川多恵子、小木曾悠紀子、小木曾義治、小田キミエ、小田賢一  
柏木美代子、片岡紀子、片桐初男、兼田育生、河田啓子、河津芳子、河村敦子、岸田義昭、城戸康年、キャサリン  
木村満、帰来堂鍼灸療院、栗村道夫、小島美恵子、榊原純夫、坂田侑平、椎野誠一、柴田益江、柴田弥生、白野倫徳  
杉江修治、杉崎卓也、杉本みな子、杉山恵美子、鈴木泉、住友正武、住友光子、宗賀浩子、高取幸江、高橋道生  
竹内仁美、田中由紀子、玉木奈美枝、玉置文代、土屋久仁子、土屋二郎、手塚和子、手取屋瑞子、中野朋儀、中林俊壹  
中道弘、西いずみ、西尾彰泰、西山英子、西脇利子、丹羽咲江、野々山洋子、野村浩子、服部将也、花木達美  
ひがくの湯、日比野公治、日比野丈夫、日比野福代、日比野祐士、平川工業(株)、平澤崇行、平野吉廣、平野雪夫  
(株)福住、藤田麻里子、藤山理恵、真崎太郎、真崎満代、真崎康弘、(株)ミアルカ、水谷裕子、水野真介、見田くるみ  
光川千鶴子、美濃和茂、宮城島拓人、宮下悠子、森本明子、森山勝文、安江佐和子、藪下彩子、山田洋平、(有)ヤフ土地  
山本由紀、山本直彦、(株)両藤社、石川佳子、内海眞、岩崎奈美、坂光信夫、森下理香、宮本信代

事務局：名古屋市東区葵 1-25-1 ニッシンビル906 TEL/FAX：052-933-1588

ホームページアドレス：<http://asante-nagoya.com>

フェイスブックアドレス：<https://www.facebook.com/asante.nagoya>